

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	みやき町立中原小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・評価項目の半分で、最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって年間取り組んだ成果である。令和6年度以降も、教職員の共通理解・共通実践のちと取り組んでいく。 ・ICTの利活用では、提案授業や研修を行ったことで、職員間の情報共有が進み、タブレット等の活用が進んだ。令和6年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップタイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、さらなるICT活用を進めていく。 ・平日夜の留守番電話設定やアプリによる欠席連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校等時間がどの月でも前年度比マイナスとなった。令和6年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。 ・いじめや児童間のトラブルなど、担任等の早期対応や保護者連絡で重大化した事案はなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようにしていく。 ・老人会や商工会の方などを講師に来ていただいたり、お仕事体験やスケッチ会で地域に出かけて学んだり、学校地域が連携・協働しながら子供たちの成長を支える機会を作ることができた。令和6年度も学校運営協議会の意見を伺いながら、さらなる連携・協働を進めていく。
------------------	---

2 学校教育目標	「心豊かで たくましく 自ら学ぶ 風の子」の育成 ～ 自分大好き 友達大好き 学校大好き ～
----------	---

3 本年度の重点目標	・豊かな人間性を育む。（思いやりのある児童） ・健康・体力づくりを推進する。（健康でたくましい児童） ・確かな学力を育む。（自ら学び考える児童）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善～「教える」「考えさせる」「習熟させる」のメリハリのきいた授業～	○主体的な学びの姿を引き出す授業づくりについて、ICTを活用しながら行う。 ○ICTが学習理解の手助けとなり、学習が分かるようになったと答えた児童を全体の70%とする。	・全職員が参観する提案授業を低・中・高学年で設定し、学校全体でICTを活用した実践を100%共有する。 ・児童の「スキルアップタイム」を設定し、タイピングなどの基本的な操作方法的の定着を図る。 ・教職員の実態に応じたICT研修を計画し、基本的な内容からより応用的な内容まで習得できる機会を設ける。	・		・		・	○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uを2回実施し、1回目よりも2回目の学級生活満足度が高くなるようにする。 ○Q-Uの結果を学級づくりを活用し、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりする」と答えた児童80%以上にする。	・自他を認め、尊重する態度を育てるために、年に3回「光るところみつけ」を実施する。「丁寧な言葉づかい」を1年間の生活のめあての重点目標として、生徒指導協議会で情報共有を図る。 ・各学級で道徳の時間を使い、人権に関する授業を行う。	・		・		・	○こころ部 ・道徳主任 ・教育相談担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、いじめについてのふり返り欄を設けることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・「いじめの避難訓練」を実施する。	・		・		・	○こころ部 ・生徒指導主任	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学習や行事で自分で決めた目標に向かってがんばった」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各学習活動及び行事への見直しをもって取り組ませ、自分自身の取り組みの過程や成長についての振り返りを行うことで自身を見つめる機会をもたせる。 ・夢授業や夢先生の学習を通して、将来の夢や目標について考える機会をもたせる。	・		・		・	○まなび部 ・キャリア教育担当	
	○人権意識を高め、コミュニケーションの手段である言葉遣いに関する指導の充実	○言葉遣いについての振り返りを定期的に各学級で行う。	・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、言葉遣いに対してふり返りの欄を設け、自分自身を振り返らせる。	・		・		・	○こころ部 ・道徳主任	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	④「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上にするため ・「バランスの良い食事の形が分かる児童」の割合87.9%→95% ・「簡単な調理ができる少してできる児童」の割合89.4%→95%	・給食の時間に電子黒板に配膳図を提示すると共に配膳カードを使用し、食事の影を意識できるようにする。 ・簡単な調理について、家庭科の調理実習後、家庭の協力を得て調理する機会を設ける。	・		・		・	○からだ部 ・食育担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力向上の具体的実践	○県のスポーツチャレンジの参加学級、参加種目を増やす。	・クラブ活動でスポーツチャレンジに取り組んでもらえるように周知する。 ・学校での取り組み数50種目を目指す。	・		・		・	○からだ部 ・体育主任	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1月に45時間・1年間360時間)を遵守する。	・勤務時間を意識した働き方とするために、放課後に打合せ等を設定しない。 ・定時退勤日を設定し、退勤時刻までに優先順位を考えて効率的に業務を行い、時短意識を高める。	・		・		・	・教頭	
	○組織的な学校運営と教職員の連携促進	○時間を意識して校務に取り組んだ教職員80%以上達成。	・教職員の連携を促進し、各部会等の分掌事務について、効率化可能な校務を時短で実施できるようにする。 ・職員連絡会は行わず校務シェアボードの掲示板を活用して、各担当からの連絡を確認する。	・		・		・	・教頭	
●特別支援教育の充実	○発達障害への理解と個別支援の計画的推進	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・児童理解についての生徒指導連絡会を月3回実施し、職員間での情報共有を行う。 ・特別支援教育に関する実践力を高める研修を計画的に行う。	・		・		・	・特別支援教育コーディネーター	

2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○安全教育	○危機回避能力の育成と、安全指導の徹底	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成		・毎月、防犯ブザーの所持の確認を行う。 ・交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。 ・毎月実施する「心のアンケート」の項目に、言葉遣いやきまりを守っているかについてふり返る欄を設け、自分自身を振り返らせる。 ・生活朝会で、児童のがんばりや活躍を紹介することで、児童の意識の向上を図る。	・		・		○からだ部 ・安全指導主任	
○生徒指導	○凡事徹底	○「ていねいな言葉遣いで話す」「学校のきまりを守る」についてのめあてを達成した児童85%以上							○こころ部 ・生徒指導主任	
○学力向上	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・き)について「守れている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。							○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任	
○地域連携	◎コミュニティ・スクールの推進	◎各学年で2回以上、地域と連携した学習活動に取り組む。		・地域の各団体と連携し、学習活動を計画・実施する。 ・年間4回学校運営協議会を開催し、よりよい地域連携の在り方を検討する。	・		・		・	・教頭 ・教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	--